

J S C A 指導者検定会ベーシック課程 三重五桂池会場 報告書

報告者：サニーコーストカヤックス
本橋 洋一

■開催概要

開催日：2018 年 4 月 3 日（火）～4 日（水）、24 日（火）

会場：知識課目・三重県多気郡多気町「五桂池ふるさと村」

技術課目・三重県多気郡多気町「五桂池」

安全技術・三重県度会郡南伊勢町「五ヶ所湾」

受験者数：3 名

認定者数：2 名

安全技術講習棄権のため認定不要：1 名

主管：サニーコーストカヤックス

担当検定員：サニーコーストカヤックス 本橋洋一

デモ担当：キオラパドル 山本啓太

■詳細

4 月 3 日（火）

当日朝は早めに現地入りし、「五桂池ふるさと村」の担当者の方と講義をする会議室の確認などをした。大きなホワイトボードもあり、非常に良い環境で講義ができた。

受験者 3 名とあいさつを済ませ、2 日間のタイムスケジュールなどの案内をしてから講義を開始した。

今回、講義はすべて本橋一人で担当した。

講義進行に関して、ホワイトボードへの板書や受験者への質問の投げかけ、屋外に出てカヤック装備に触れるなど、本橋一人で実施したのが初めてであったので漫然とした講義にならないよう配慮した。

受験者の 3 名のうち 2 名はカヤックがまったくの初心者であったが講義を熱心に聞き、筆記試験も想像以上に優秀な結果だった。



4月4日（水）

天候：晴れ、ほぼ無風

午前中は事前講習を実施した。

2名はまったくの初心者、もう1名は昨年夏にカヤック体験などの業務補助をしていた。

事前講習では陸上でのパドリング講習から始め、指導技術についても触れた。水上講習では基本パドリングを反復し、ポイントを押さえ、さらに検定課目についてもしっかりと練習することができた。

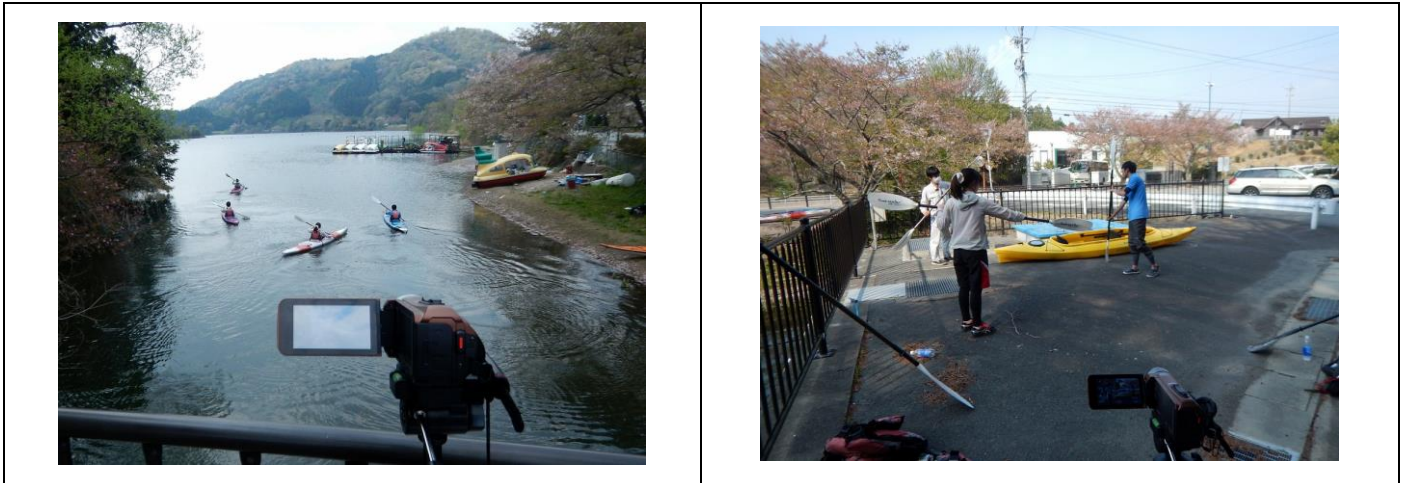
昼食を挟んで午後から漕艇技術検定を実施。

会場となった五桂池は入り組んだため池で、この日はほぼ無風とコンディションは良かった。

湖畔に釣り人、湖上にはレンタルのスワンボートが行き交っていたので検定会場は道路脇の奥まったところとした。広々とした水上に比べると目標物も定めやすく、検定は実施しやすく感じた。道路脇であったため岸の少ない湖岸であったがビデオ撮影もしやすかった。

漕艇技術検定のすぐあとにフィードバックを実施した。

検定課目に集中するあまり視線が下がっていた点が気になったので、周りの景色を見ながら漕ぐことを意識してもらった。



カヤックを湖岸から上げ、ビデオを設置していた道路脇の空き地に移動して指導技術検定を実施。

受験者三人が実際に業務で必要となるであろう課題を想定し、各人一つずつ実演してもらった。

その後、フィードバックとして山本が3つの課題を通して実演し、最低限押さえなければならないポイントを再確認してもらった。

検定終了後、新たに始めるカヤック事業について相談を受け、マネジメント担当者の方も交えていくつかの提案をした。



※ スワンボートとカヤックとの衝突実験

4月24日(火)

天候：曇り一時雨、南の風2~5m

業務上の事情により日を改めて安全技術講習を五ヶ所湾にて実施した。

受験者の一人が仕事の都合でどうしても受講できなくなり、棄権となった。

午前中はフォローアップ講習としてショートツーリングをしながら基本パドリングを再確認してもらった。

今回は新規に始めるカヤックレンタル事業に関わる別の担当者も参加したので、まったく陸上パドリング講習をしないで漕ぐということがどんなものなのかを試した。

それなりに漕ぐことはできるが思ったように操作できるようになるまでに時間が掛かること、力み過ぎてしまい体力消耗が著しいことなどを実感してもらうことができた。

また、南風が吹いていたのでウェザーコッキングをしっかりと体感してもらえた。



昼食後は安全技術講習の要であるレスキュートレーニングを実施。

全員にウェットスーツとパドリングウェアを着せた。

波風の影響を受けない場所へ移動し、トーイング、セルフレスキュー、グループレスキューの順番で講習をした。カヤックレンタル事業で特に必要となりそうなトーイングに関してはトーラインの扱い方などを重点的に説明し、使用するギアに習熟しなければならないことを強調した。

セルフレスキューは受験生二名とも難なく成功したが、トーイングやグループレスキュー時に他のカヤックへの接触に少々苦戦するシーンもあった。

グループレスキューではシングル艇だけではなく、実際にレンタル事業で使用するレクリエーションカヤックのタンデム艇でも練習した。

何度か反復練習をし、講習を終了した。



日が空いてしまったが結果発表は片付けと着替えを済ませてからとした。二名とも合格で検定会を無事終了することができた。

終了後、新しく始める事業に関して受付でのインフォメーションから現場でのオペレーションまで様々なアドバイスをさせていただいた。新規に事業展開を考えている受験者が多いベーシック検定会ではこうしたアフターフォローをどこまできめ細かくできるかで、その後の仕事上の信頼関係構築としても非常に重要であると感じた。

こういった活動を進めて三重県での自然体験活動事業者間での連携を高め、研修や各種講習を継続的に実施し、ネットワークを広げていきたい。

以上